

平成 24 年度

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況に係る

改善計画

## 1. 達成できなかった要因

### (1) 達成できなかった事項

本計画において定めた目標のうち、再生利用目標について以下のとおり達成できなかった。

	現状 (H17)	目標値 (H23)	実績 (H23)
再生利用量	10,340 t	19,856 t	12,114 t
(再生利用率)	(13.3%)	(21.6%)	(15.2%)

### (2) 具体的要因

構成市町では、リサイクルの推進に向けて、住民や事業者への資源物の分別の徹底に向けた取り組みを行っている。また、倉浜衛生施設組合では、新たに整備した熱回収施設において、金属類や溶融スラグの回収、リサイクルセンターにおいて、不燃・粗大ごみからの金属類等の資源回収や資源ごみとして分別している資源物の資源化を適正に実施している。

以上のとおり、本地域では資源化率向上に向けた取り組みを推進しているが、以下のことを背景に再生利用率が伸び悩んでいる状況にあると考えられる。

#### ①ごみの総排出量の減少による資源ごみ総量の減少

排出抑制施策の実施により住民・事業者のごみの排出抑制に対する意識が向上しており、増減はあるものの、1人1日当たりのごみの排出量がおおよそ減少傾向にある。このため、資源ごみの総量についても減少しているものと考えられる。

#### ■ごみ排出量原単位の推移（集団回収含む）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
ごみ排出量原単位 (g/人・日)	855.4	854.2	806.7	834.9	819.9	836.8

※ ごみ排出量原単位＝ごみ総排出量（家庭系+事業系+集団回収）÷人口÷年間日数

#### ②民間ルート等を通じた資源化による資源ごみ総量の減少

資源価格の高騰にともない、家庭から分別排出されていた資源物が、民間ルート（資源回収業者との直接取引や学校等での資源回収事業）等を通して資源化されることにより、本地域の資源ごみ総量が減少していると考えられる。

特に、紙類については、平成18年度から平成20年度にかけて大きく減少しており、減少分は民間ルートを通して資源化されていると考えられる。

## ■家庭系収集資源ごみの排出量の推移

単位：t/年

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
収集資源ごみの合計	6,160	6,561	6,767	7,240	7,647	8,002
紙類	<b>1,608</b>	<b>911</b>	<b>778</b>	<b>1,189</b>	<b>1,225</b>	<b>1,247</b>
かん・びん	2,034	1,781	2,004	2,406	2,812	2,536
ペットボトル	646	638	613	721	651	676
草木類	1,872	3,231	3,372	2,924	2,959	3,543

※平成18年度～19年度の草木類の増加は、北谷町で公園清掃や自治会等の地域の清掃活動で排出される草木類の資源化を開始したため。

## ■資源物の価格推移（参考）

単位：円/kg

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
スチール缶	14	27	23	9	23	24
アルミ缶	125	167	100	49	43	64
古紙類	10	11	18	13	15	15

※アルミ缶、アルミ缶の価格は組合の売却単価を記載。

※古紙価格は、(財)古紙再生促進センター調べによる各年度4月の関東地区の古紙(新聞)価格。

### ③分別排出された資源物の抜き取り

家庭から排出されるごみにおいては、分別の徹底・資源ごみ収集日の定着により、収集前の資源ごみが抜き取られやすくなっており、このため、回収されるはずの資源ごみが減り再生利用量が伸び悩んでいるものと考えられる。

## 2. 目標の達成に向けた方策

### (1) 新目標値の設定

本改善計画書では、「持続可能な循環型社会」の形成に向けて住民、事業者、行政（構成市町及び倉浜衛生施設組合）が協働でごみの減量化や資源物の有効利用を図っていくことを新たな基本方針とした。

また、計画目標年次は、国の目標（廃棄物処理法に基づく基本方針で定められている目標）及び沖縄県廃棄物処理計画（第3期）の目標年次である平成27年度とした。

本地域の再生利用率の新目標値については、本地域の現状の再生利用率が沖縄県全体と同水準にあること、沖縄県全体の現状が全国の再生利用率に比べて低いことを勘案すると、国の再生利用率の目標値である25%の達成は難しいことから、沖縄県廃棄物処理計画（第3期）の再生利用率の目標値である、「平成27年度に再生利用率22%」を目指すものとした。

### ■再生利用率の新目標値

本地域の再生利用率を平成27年度に22%まで向上させる。

## (2) 新目標値達成の根拠(手法)

再生利用目標の達成に向け、ごみの減量化・資源化に関する環境教育・普及啓発活動、事業者や住民に対する資源物の分別指導を強化することで、家庭系及び事業系ごみの資源物の分別徹底を図り、再生利用を促進させるものとした。

資源物の分別徹底（適正分別）を図ることによる効果の見込みは以下のとおり算出した。

- 家庭系及び事業系の収集可燃ごみに混入している未分別の資源物を資源ごみへ移行させるものとした。
- 分別対象となる資源物は、資源ごみとして分別している資源物のうち可燃性のものとし、家庭系ごみは、紙類、ペットボトル及び草木類、事業系ごみは、紙類及びペットボトルとした。
- 家庭系及び事業系の収集可燃ごみに混入している未分別の資源物の割合については、平成 23 年度の本地域のごみの排出実績及び文献値<sup>\*1</sup>より推定し、平成 27 年度の資源ごみへの移行割合を設定することで、移行量を算出した。（下表参照）

※1 家庭系:容器包装廃棄物の使用・排出実態調査 (H22 年度)(環境省)  
事業系:事業系一般廃棄物の減量化・再資源化の先進的な取組に関する調査報告書(H20.2)  
(八都県市廃棄物問題検討委員会)

### (家庭系ごみの場合)

#### ■家庭系収集可燃ごみに占める未分別の資源物割合と平成 27 年度の資源ごみへの移行割合の目標値

	収集可燃ごみ中の 未分別の資源物量の割合 (平成 23 年度)①	平成 27 年度の資源ごみへの 移行割合の目標	
		未分別の資源物量 の割合②	移行した資源物量 の割合①-②
紙 類	17.47%	13.98%	3.49%
ペットボトル	0.57%	0.06%	0.51%
草 木 類	4.55%	0.45%	4.10%
合 計	22.59%	14.49%	8.10%

### (事業系ごみの場合)

#### ■事業系収集可燃ごみに占める未分別の資源物割合と平成 27 年度の資源ごみへの移行割合の目標値

	収集可燃ごみ中の 未分別の資源物量の割合 (平成 23 年度)①	平成 27 年度の資源ごみへの 移行割合の目標	
		未分別の資源物量 の割合②	移行した資源物量 の割合①-②
紙 類	20.92%	13.40%	7.52%
ペットボトル	1.34%	0.86%	0.48%
合 計	22.26%	14.26%	8.00%

### (3) 適正分別の効果①(家庭系ごみの排出量)

家庭系ごみの分別の徹底を図ることにより、収集可燃ごみから平成27年度において約3,300tを資源ごみへ移行させることを目標とする。算出根拠については、参考資料⑦を参照とする。

■ 適正分別前の家庭系ごみ排出量内訳 (単位:t/年)

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	
家庭系	収集	可燃ごみ	41,798	41,662	41,519	41,360	41,083
		不燃ごみ	1,056	1,053	1,050	1,046	1,039
		粗大ごみ	1,139	1,137	1,133	1,129	1,121
		資源ごみ	8,002	8,092	8,182	8,266	8,316
		紙類	1,247	1,261	1,276	1,289	1,297
		金属類・ガラス類	2,536	2,560	2,582	2,603	2,618
		ペットボトル	676	682	688	693	697
		草木類	3,543	3,589	3,636	3,681	3,704
		有害ごみ(蛍光管等)	38	40	39	39	39
		合計	52,033	51,984	51,923	51,840	51,598
	直接搬入	可燃ごみ	499	498	496	494	491
		不燃ごみ	5	5	5	5	5
		粗大ごみ	34	34	34	34	33
		資源ごみ	200	201	202	203	204
その他金属類		4	4	4	4	4	
草木類		196	197	198	199	200	
合計	738	738	737	736	733		
合計	52,771	52,722	52,660	52,576	52,331		

■ 収集可燃ごみからの資源ごみへの移行量の算出結果 (単位:t/年)

	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)
収集可燃ごみ(移行前)	41,662	41,519	41,360	41,083
資源ごみへの移行量	844	1,681	2,513	3,328
紙類	364	725	1,084	1,435
ペットボトル	53	106	159	211
草木類	427	850	1,270	1,682
収集可燃ごみ量(移行後)	40,818	39,838	38,847	37,755

■ 適正分別後の家庭系ごみ排出量内訳 (単位:t/年)

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	
家庭系	収集	可燃ごみ	41,798	40,818	39,838	38,847	37,755
		不燃ごみ	1,056	1,053	1,050	1,046	1,039
		粗大ごみ	1,139	1,137	1,133	1,129	1,121
		資源ごみ	8,002	8,936	9,863	10,779	11,644
		紙類	1,247	1,625	2,001	2,373	2,732
		金属類・ガラス類	2,536	2,560	2,582	2,603	2,618
		ペットボトル	676	735	794	852	908
		草木類	3,543	4,016	4,486	4,951	5,386
		有害ごみ(蛍光管等)	38	40	39	39	39
		合計	52,033	51,984	51,923	51,840	51,598
	直接搬入	可燃ごみ	499	498	496	494	491
		不燃ごみ	5	5	5	5	5
		粗大ごみ	34	34	34	34	33
		資源ごみ	200	201	202	203	204
その他金属類		4	4	4	4	4	
草木類		196	197	198	199	200	
合計	738	738	737	736	733		
合計	52,771	52,722	52,660	52,576	52,331		

#### (4) 適正分別の効果②(事業系ごみの排出量)

事業系ごみの分別の徹底を図ることにより、収集可燃ごみから平成27年度において約1,800tを資源ごみへ移行させることを目標とする。算出根拠については、参考資料⑦を参照とする。

■ 適正分別前の事業系ごみ排出量内訳 (単位:t/年)

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	
事業系	収集	可燃ごみ	24,652	23,869	23,378	22,784	22,207
		不燃ごみ	525	510	499	486	474
		資源ごみ	1,167	1,341	1,346	1,353	1,356
		紙類	4	7	7	7	7
		金属類・ガラス類	853	1,020	1,022	1,025	1,026
		ペットボトル	2	3	3	3	3
		草木類	308	311	314	318	320
		合計	26,344	25,720	25,223	24,623	24,037

■ 収集可燃ごみからの資源ごみへの移行量の算出結果 (単位:t/年)

		H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)
収集可燃ごみ	(移行前)	23,869	23,378	22,784	22,207
	資源ごみへの移行量	477	935	1,367	1,777
	紙類	448	879	1,285	1,670
	ペットボトル	29	56	82	107
	収集可燃ごみ量(移行後)	23,392	22,443	21,417	20,430

■ 適正分別後の事業系ごみ排出量内訳 (単位:t/年)

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	
事業系	収集	可燃ごみ	24,652	23,392	22,443	21,417	20,430
		不燃ごみ	525	510	499	486	474
		資源ごみ	1,167	1,818	2,281	2,720	3,133
		紙類	4	455	886	1,292	1,677
		金属類・ガラス類	853	1,020	1,022	1,025	1,026
		ペットボトル	2	32	59	85	110
		草木類	308	311	314	318	320
		合計	26,344	25,720	25,223	24,623	24,037

(5) 適正分別の効果③（ごみの種類別排出量まとめ）

適正分別前後のごみの種類別排出量のまとめ（家庭系＋事業系＋集団回収）は以下に示すとおりである。算出根拠については、参考資料⑦を参照とする。

■ 適正分別前の種類別ごみ排出量内訳 (単位:t/年)

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)
家庭系 + 事業系	可燃ごみ	66,949	66,029	65,393	64,638	63,781
	不燃ごみ	1,586	1,568	1,554	1,537	1,518
	粗大ごみ	1,173	1,171	1,167	1,163	1,154
	資源ごみ	9,369	9,634	9,730	9,822	9,876
	紙類	1,251	1,268	1,283	1,296	1,304
	金属類・ガラス類	3,389	3,580	3,604	3,628	3,644
	ペットボトル	678	685	691	696	700
	草木類	4,047	4,097	4,148	4,198	4,224
	その他金属類	4	4	4	4	4
	有害ごみ(蛍光管等)	38	40	39	39	39
排出量	79,115	78,442	77,883	77,199	76,368	
集団回収量	463	474	484	494	505	
総排出量	79,578	78,916	78,367	77,693	76,873	

■ 適正分別後の種類別ごみ排出量内訳 (単位:t/年)

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)
家庭系 + 事業系	可燃ごみ	66,949	64,708	62,777	60,758	58,676
	不燃ごみ	1,586	1,568	1,554	1,537	1,518
	粗大ごみ	1,173	1,171	1,167	1,163	1,154
	資源ごみ	9,369	10,955	12,346	13,702	14,981
	紙類	1,251	2,080	2,887	3,665	4,409
	金属類・ガラス類	3,389	3,580	3,604	3,628	3,644
	ペットボトル	678	767	853	937	1,018
	草木類	4,047	4,524	4,998	5,468	5,906
	その他金属類	4	4	4	4	4
	有害ごみ(蛍光管等)	38	40	39	39	39
排出量	79,115	78,442	77,883	77,199	76,368	
集団回収量	463	474	484	494	505	
総排出量	79,578	78,916	78,367	77,693	76,873	

(6) 適正分別の効果④ (再生利用量の内訳)

適正分別前後の再生利用内訳を示す。算出根拠は、参考資料⑦を参照とする。

■適正分別前の再生利用内訳

○適正分別前の種類別ごみ排出量内訳

	搬入先	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
可燃ごみ	熱回収施設	66,949	66,029	65,393	64,638	63,781	
不燃ごみ	リサイクルセンター	1,586	1,568	1,554	1,537	1,518	
粗大ごみ	-	1,173	1,171	1,167	1,163	1,154	
資源ごみ	-	9,369	9,634	9,730	9,822	9,876	
紙類	リサイクルセンター	1,251	1,268	1,283	1,296	1,304	
金属類・ガラス類	リサイクルセンター	3,389	3,580	3,604	3,628	3,644	
ペットボトル	リサイクルセンター	678	685	691	696	700	
草木類	-	4,047	4,097	4,148	4,198	4,224	
堆肥化不適分	リサイクルセンター	623	631	638	646	650	
堆肥化	堆肥化施設	3,424	3,466	3,510	3,552	3,574	
その他金属類	資源化(売却)	4	4	4	4	4	
有害ごみ(蛍光管等)	リサイクルセンター	38	40	39	39	39	
排出量	-	79,115	78,442	77,883	77,199	76,368	
集団回収量(紙類)	資源化(売却)	463	474	484	494	505	
総排出量	-	79,578	78,916	78,367	77,693	76,873	

○リサイクルセンター

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
搬入		8,013	8,219	8,255	8,286	8,296	
不燃ごみ		1,586	1,568	1,554	1,537	1,518	
粗大ごみ(不燃性)		448	447	446	444	441	
資源ごみ		5,941	6,164	6,216	6,266	6,298	
紙類		1,251	1,268	1,283	1,296	1,304	
金属類・ガラス類		3,389	3,580	3,604	3,628	3,644	
ペットボトル		678	685	691	696	700	
草木類(堆肥化不適分)		623	631	638	646	650	
有害ごみ		38	40	39	39	39	
搬出		8,013	8,219	8,255	8,286	8,296	
可燃残渣	溶融	1,312	1,355	1,356	1,357	1,355	
不燃残渣	埋立	696	714	717	720	721	
草木類(堆肥化不適物)	溶融	623	631	638	646	650	
資源物	資源化	5,382	5,519	5,544	5,563	5,570	
紙類	-	1,154	1,170	1,184	1,196	1,203	
金属類	-	1,019	1,051	1,053	1,054	1,053	
ガラス類合計	-	2,516	2,596	2,600	2,602	2,599	再生利用分
ガラス類(生きピン)	-	97	100	100	100	100	
ガラス類(その他)	-	2,419	2,496	2,500	2,502	2,499	
ペットボトル	-	655	662	668	672	676	
蛍光管等	-	38	40	39	39	39	

○熱回収施設

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
搬入		69,609	68,739	68,108	67,360	66,499	
可燃ごみ(直接焼却)		66,949	66,029	65,393	64,638	63,781	
粗大ごみ(直接焼却)		725	724	721	719	713	
可燃残渣(処理残渣)		1,312	1,355	1,356	1,357	1,355	
草木類(処理残渣)		623	631	638	646	650	
搬出		6,539	6,454	6,396	6,326	6,244	
固化飛灰	埋立	3,698	3,650	3,617	3,577	3,531	
資源物	資源化	2,841	2,804	2,779	2,749	2,713	
溶融スラグ	-	2,570	2,536	2,513	2,486	2,454	再生利用分
金属類	-	271	268	266	263	259	

○堆肥化施設(全て資源化)

	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
草木類(堆肥化)	3,424	3,466	3,510	3,552	3,574	再生利用分

○直接売却分(全て資源化)

	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
その他金属類	4	4	4	4	4	再生利用分

○集団回収(全て資源化)

	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
集団回収(紙類)	463	474	484	494	505	再生利用分



■適正分別後の再生利用内訳

○適正分別前の種類別ごみ排出量内訳

	搬入先	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
可燃ごみ	熱回収施設	66,949	64,708	62,777	60,758	58,676	
不燃ごみ	リサイクルセンター	1,586	1,568	1,554	1,537	1,518	
粗大ごみ	-	1,173	1,171	1,167	1,163	1,154	
	可燃性	725	724	721	719	713	
	不燃性	448	447	446	444	441	
資源ごみ	-	9,369	10,955	12,346	13,702	14,981	
	紙類	1,251	2,080	2,887	3,665	4,409	
	金属類・ガラス類	3,389	3,580	3,604	3,628	3,644	
	ペットボトル	678	767	853	937	1,018	
	草木類	4,047	4,524	4,998	5,468	5,906	
	堆肥化不適分	623	631	638	646	650	
	堆肥化	3,424	3,893	4,360	4,822	5,256	
	その他金属類	4	4	4	4	4	
有害ごみ(蛍光管等)	リサイクルセンター	38	40	39	39	39	
排出量	-	79,115	78,442	77,883	77,199	76,368	
集団回収量(紙類)	資源化(売却)	463	474	484	494	505	
総排出量	-	79,578	78,916	78,367	77,693	76,873	

○リサイクルセンター

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
搬入		8,013	9,113	10,021	10,896	11,719	
	不燃ごみ	1,586	1,568	1,554	1,537	1,518	
	粗大ごみ(不燃性)	448	447	446	444	441	
	資源ごみ	5,941	7,058	7,982	8,876	9,721	
	紙類	1,251	2,080	2,887	3,665	4,409	
	金属類・ガラス類	3,389	3,580	3,604	3,628	3,644	
	ペットボトル	678	767	853	937	1,018	
	草木類(堆肥化不適分)	623	631	638	646	650	
	有害ごみ	38	40	39	39	39	
搬出		8,013	9,113	10,021	10,896	11,719	
	可燃残渣	1,312	1,343	1,333	1,322	1,310	
	不燃残渣	696	792	871	947	1,018	
	草木類(堆肥化不適物)	623	631	638	646	650	
	資源物	5,382	6,347	7,179	7,981	8,741	
	紙類	1,154	1,919	2,663	3,381	4,067	
	金属類	1,019	1,051	1,053	1,054	1,053	
	ガラス類合計	2,516	2,596	2,600	2,602	2,599	再生利用分
	ガラス類(生きピン)	97	100	100	100	100	
	ガラス類(その他)	2,419	2,496	2,500	2,502	2,499	
	ペットボトル	655	741	824	905	983	
	蛍光管等	38	40	39	39	39	

○熱回収施設

		H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
搬入		69,609	67,406	65,469	63,445	61,349	
	可燃ごみ(直接焼却)	66,949	64,708	62,777	60,758	58,676	
	粗大ごみ(直接焼却)	725	724	721	719	713	
	可燃残渣(処理残渣)	1,312	1,343	1,333	1,322	1,310	
	草木類(処理残渣)	623	631	638	646	650	
搬出		6,539	6,329	6,147	5,957	5,761	
	固化飛灰	3,698	3,579	3,476	3,369	3,258	
	資源物	2,841	2,750	2,671	2,588	2,503	
	熔融スラグ	2,570	2,487	2,416	2,341	2,264	再生利用分
	金属類	271	263	255	247	239	

○堆肥化施設(全て資源化)

	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
草木類(堆肥化)	3,424	3,893	4,360	4,822	5,256	再生利用分

○直接売却分(全て資源化)

	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
その他金属類	4	4	4	4	4	再生利用分

○集団回収(全て資源化)

	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)	備考
集団回収(紙類)	463	474	484	494	505	再生利用分

### (7) 適正分別の効果⑤（再生利用量の見込み）

分別の徹底を図った場合の新目標年次までの再生利用量の見込みは以下のとおりであり、適正分別を推進することで再生利用率の新目標値である 22%を達成できる見込みである。なお、詳細については、参考資料⑦を参照とする。

#### ■適正分別前の再生利用量の見込み

年度	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)
ごみ総排出量	79,578	78,916	78,367	77,693	76,873
再生利用量	12,114	12,267	12,321	12,362	12,366
紙類	1,617	1,644	1,668	1,690	1,708
金属類	1,294	1,323	1,323	1,321	1,316
ガラス類	2,516	2,596	2,600	2,602	2,599
ペットボトル	655	662	668	672	676
草木類	3,424	3,466	3,510	3,552	3,574
蛍光管等	38	40	39	39	39
熔融スラグ	2,570	2,536	2,513	2,486	2,454
再生利用率	15.22%	15.54%	15.72%	15.91%	16.09%

※ 再生利用量は、「適正分別の効果④(再生利用量の内訳)」の資源化される品目ごとの合計値。

#### ■適正分別後の再生利用量の見込み

年度	H23(実績)	H24(推計)	H25(推計)	H26(推計)	H27(推計)
ごみ総排出量	79,578	78,916	78,367	77,693	76,873
再生利用量	12,114	13,468	14,698	15,889	17,009
紙類	1,617	2,393	3,147	3,875	4,572
金属類	1,294	1,318	1,312	1,305	1,296
ガラス類	2,516	2,596	2,600	2,602	2,599
ペットボトル	655	741	824	905	983
草木類	3,424	3,893	4,360	4,822	5,256
蛍光管等	38	40	39	39	39
熔融スラグ	2,570	2,487	2,416	2,341	2,264
再生利用率	15.2%	17.1%	18.8%	20.5%	22.1%
本地域で設定した平成27年度の再生利用率の新目標値					22.0%

※ 再生利用量は、「適正分別の効果④(再生利用量の内訳)」の資源化される品目ごとの合計値。

#### **(5) 目標達成に向けた具体的施策**

再生利用目標を達成するための具体的な施策内容については、今後、沖縄市、宜野湾市、北谷町が策定している一般廃棄物処理基本計画の見直しを行い、地域の実情に応じた施策内容を検討する予定である。

その際、再生利用量目標が達成できなかった要因の一つに挙げている「分別排出された資源物の抜き取り」への対応策やその他のリサイクルの推進のために必要な施策についても検討を行う。